

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野西中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、社会の「知識・技能」において3pt向上させる。理科の「知識・技能」において2pt向上させる。	⇒ タブレット持ち帰りの徹底やスタディサプリの効果的な活用を促し、学校で学んだことを家庭学習にもつなげ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指し、反復・習熟を行う。その際、生徒の学習履歴を確認し手立てを講じていく。
思考・判断・表現	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、社会・理科の「思考・判断・表現」において2pt向上させる。	⇒ 教科横断的な視点として、資料の活用、自分の考えを効果的に伝える工夫、問題を解く過程を解釈する活動などに重点を置き取り組む。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「自尊意識」の質問項目の「①自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。②自分には、よいところがあると思いますか。」において、肯定的な回答の割合を市平均の2pt以上にする。	⇒ 学力と生活習慣等のクロス集計結果より、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を推進し、単元や内容のまとまりのなかで生徒の支えとなる基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、自尊意識の向上を行う。

次年度に向けて (3月)

目標・策の設定 (4月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	<p>調査結果分析(2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①結果分析(管理職・学年主任等)</li> <li>②詳細分析(学年・教科担当)</li> <li>③分析共有(児童生徒の実態把握)</li> </ul> <p>職員会議・校内研修等</p>	
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

年度末評価 (2月)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+2pt、数学-4ptであった。数学のデータの活用をする問題で解答類型を見てみると、無回答で回答する生徒が多かった。
思考・判断・表現	英語の「読むこと」領域において課題がみられた。ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題で無回答が21%と高く、問題の意図や趣旨を理解できず回答を諦める生徒が多いのではないかと考えられる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は49%であった。

①結果分析(管理職・学年主任等)  
②詳細分析(学年・教科担当)  
③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	
中2	
中3	

さいたま市学習状況調査 <小3~中3> (1月)

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 基礎的・基本的な知識の定着だけでなく、データの活用や問題の読み取りの能力・意図を汲み取ることができる指導を行う。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 教科横断的な視点として、資料の活用、自分の考えを効果的に伝える工夫、問題を解く過程を解釈する活動などに重点を置き取り組む。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 学力と生活習慣等のクロス集計結果より、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を推進し、単元や内容のまとまりのなかで生徒の支えとなる基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、自尊意識の向上を行う。

中間評価(9月)  
目標・策の見直し